



各 位

2023年12月13日

会 社 名	株式会社 キッツ
代表者名	代表取締役社長 河野 誠
コード番号	6498 (東証プライム)
問合せ先	経営企画本部 広報・IR 室長 吉田 幹夫 Tel (050) 3649 - 2180

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状を評価・分析し、企業価値向上に向けた今後の方針・具体策を決議いたしましたので、お知らせいたします。

当社では、株主資本コストをCAPMの手法による算定及び当社への期待収益率の2つの視点から分析しています。現状、当社の資本収益性は投資家の期待収益率と同水準となっている一方、中長期的な収益の成長性については市場の信頼を獲得していくことが今後の課題であると認識しております。このため、当社では、“ROIC×ESG”経営の推進、成長戦略の加速及びIR戦略の強化を進めることなどにより、さらなる利益の創出、成長期待の醸成及び資本コストの低減を実現し、企業価値の向上を図ってまいります。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の詳細は、別紙をご参照ください。

以 上

株主資本コストについての現状分析

株主資本コストについて

下記の2つの視点から分析

① CAPM の手法を用いて算定した株主資本コスト： **6%** 程度

② キッツの期待成長率を加味した投資家の期待収益率（株式益回り = PERの逆数を利用）：直近は **10%** 程度で推移

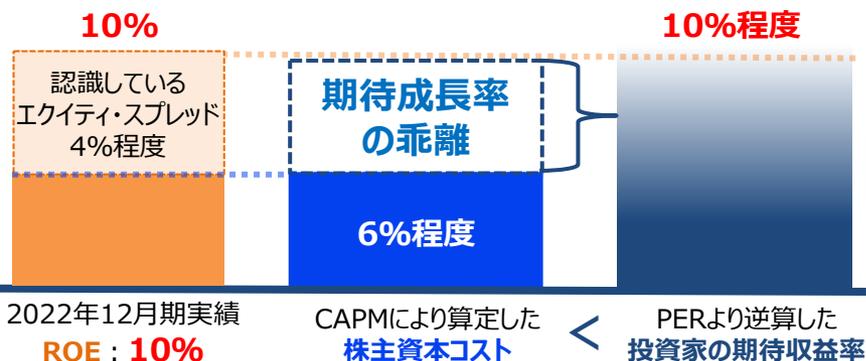
1 CAPM リスクフリーレート + $\beta \times$ マーケットリスクプレミアム



2 PERの逆数 株主資本コスト - 期待成長率

現状・分析

現状：2022年12月期にROE10%を達成 → 一方でPBRの水準は1倍前後で伸び悩む



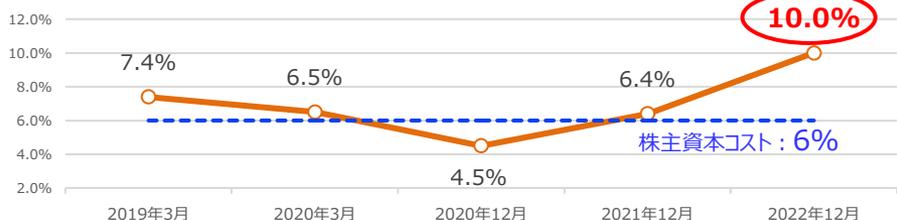
2022年12月期のROEはCAPMを大きく上回り、エクイティ・スプレッド(※)はプラスになると考えられるが、PBRの水準は1倍前後

※エクイティ・スプレッド = ROE - 株主資本コスト (CAPM)

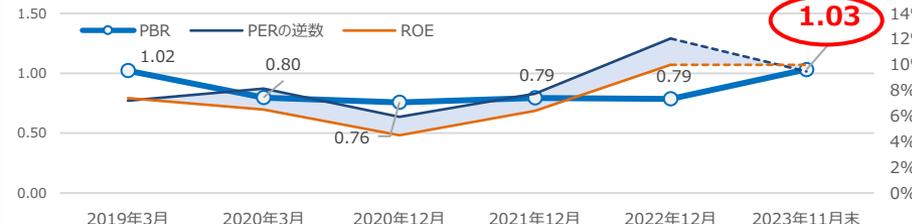
分析

- 2022年度によようやく、キッツの資本収益性が投資家の期待収益率と同水準に
- 中長期的な収益の成長性について、市場の信頼を獲得していくことが今後の課題

期末ROEの推移



PBR (倍)・PERの逆数・ROEの期末推移



※2020年12月期は決算期変更に伴い9ヶ月決算であるが、株主資本コストとの比較可能性を確保するため2020年1月～2020年12月末までの期間でROEを算定している

企業価値向上のための方針・施策

今後の方針・施策

各項目の詳細情報へのリンク

中期経営計画に掲げるROE目標を着実に達成し、更なる企業価値向上を目指す

□ “ROIC×ESG”経営の推進

▫ 企業価値と社会価値の向上を同時に目指す

□ 成長戦略の加速

▫ 成長領域への積極投資・M&A

□ IR戦略の強化

▫ 市場の期待に応える開示へ

